

人文会 ニュース

jinbunkai news

August 2020

NO. 135

1 代表幹事挨拶

田崎洋幸

2 15分で読む

九月入学はなぜ必要か

橋爪大三郎

13 書店現場から

沖縄書店大賞、これまでとこれから

森本浩平

21 図書館レポート

新型コロナウイルスと司書のいる高校図書館 木下通子

委員会活動方針

人文会活動報告

人文会年次総会報告



www.jinbunkai.com

法政大学出版局

http://www.h-up.com/

《叢書・ユニベルシタス 1116》

偶発事論の存在論

破壊的可塑性についての試論

カトリヌ・マラブー 著／鈴木智之 訳
傷ついた同一性が再び元の自分に返ることの、この不可能性から、ひとつの存在様式が立ち現れる。それは、どのような姿形を取るのか。
2800円

《叢書・ユニベルシタス 1114》

自由の哲学

カントの実践理性批判

オトフリート・ヘッフェ 著

品川哲彦、竹山重光、平出喜代恵 訳
カントによる道徳哲学・倫理学の革命の意味を明快に読み解く最前線の注釈書。啓蒙、批判、道徳、世界市民主義をめぐる最良の手引き。
5200円

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-3
☎ 03 (5214) 5540 ／表示価格は税別です

川口茂雄／越門勝彦／三宅岳史 編著

現代フランス

哲学入門

新刊



「きちんと知りたい」に応える、フランス現代思想の最新版入門書。19世紀から現代まで、120名の重要人物を紹介する。
*442頁 本体3500円

構造主義の数理

落合仁司著 ● ソシュール、ラカン、ドゥルーズ、ソールカの批判を乗り越え、構造主義の数理に真正面から向き合う。
*178頁 本体2400円

ミネルヴァ書房

京都市山科区日ノ岡堤谷町1
TEL075-581-0296 *価格税別

どっちの勝ち？

トニ&スレイド・モリスン ノーベル賞受賞黒人女性作家の現代版インソップ物語の絵本。鶴殿えりか・小泉泉訳 2000円

日ソ戦争 1945年8月 棄てられた
富田武「触れたくない敗戦史」ゆえに放置されてきた日ソ戦争の詳細とその前後。75年目に初めて明される真実。 2000円

ゲーデルの悪霊たち 論理学と狂気

カスリーン・ゲス、ゲーデル文書解説を軸に、20世紀を生きた天才論理学者の思考と心の真相に迫る。新谷昌宏訳 500円

パウラ・モーター・ゾーン・リベッカー

ボイス・ド・イツ表現主義の先駆者、初めて裸体の自画像を描いた女性画家の短くも激しい31年の生。藤川芳朗訳 800円

官僚制の思想史

中野目 徹編 近現代日本社会の断面（僅少）4500円
職務に従事する官吏の意識や専門知官界内外で議論された彼らの行動規範を追究し、官僚制の思想的側面に迫る。

沖縄米軍基地全史

なぜ基地は集中しているのか？ 基地問題の起源を探り、戦後日本を沖縄から考える。（歴史文化ライブラリー）
野添文彬著 1700円

テーマで学ぶ 日本古代史 全2冊（2刷）

佐藤 信監修・新古代史の会編 政治・外交編／社会・史料編
研究史、最新の見解、参考文献がわかる！
各1900円

吉川弘文館 東京都文京区本郷 7-2
☎ 03-3813-9151 税別

みすず書房（税別）

東京都本郷2-20-7 www.ms.z.co.jp

代表幹事挨拶

みずず書房 田崎洋幸

二〇二〇年六月一七日に行われた年次総会において代表幹事に再任されました。会計幹事の平石修氏（御茶の水書房）、書記幹事の片桐幹夫氏（晶文社）、広報委員会委員長の岩野忠昭氏（白水社）の三名は留任。前期、調査・研修委員会委員長の水口大介氏（創元社）が、今期は販売・企画委員会委員長に就任。新たに、調査・研修委員会委員長として片山伸治氏（吉川弘文館）に重責を担っていただくことになりました。以上の六名が幹事となり、会の運営を担うこととなります。さらに各委員長を補佐する副委員長として、販売・企画委員会は森卓巳氏（青土社）、調査・研修委員会は西野浩文氏（勁草書房）、広報委員会は乙子智氏（慶應義塾大学出版会）の三名に担当いただくこととなりました。喜ばしいこととして、二年間休会していた誠信書房が復会したこと。残念なこととして、日本評論社が休会となったこと。コロナ禍の影響で、本来であれば五月に行うべきところ、一月遅れの総会となったことを併せて報告させていただきます。

出版不況のなか、コロナ騒動が追い打ちをかけるのではないかと言われ、多くの大学が封鎖されたことは、学術専門書を刊行する出版社にとっては死活問題と思われていました。多くの書店が休業や時短営業となったことで販売の機会を失ったことは事実であり、多くの読者の方々にご不便をお掛けすることとなりましたが、この間、予想以上に人文会会員社の書籍をお買い求めいただけたように思います。このことは本が持つ恒久的な力と、多くの読者に支えていただいていることを改めて実感することとなりました。今後も、読み継がれる良書を刊行して参りますので、引き続き、よろしくお願いたします。

九月入学はなぜ必要か

二〇二〇年春、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、学校が休校になった。それが長引くなか、都道府県の知事が、この機会に九月入学に切り換えたらよいのでは、と提案した。賛成する声も広がるいっぽう、課題や困難が多いと慎重な声もあがって、気をもんだ。原稿を書き終えた六月初め、安倍政権が九月入学の導入を見送った、というニュースが伝えられた。文部科学省が強く抵抗したようだ。

このまま九月入学が見送りになってしまふなら、日本にとって残念なことだ。千載一遇のチャンスを逃したことを、この先何世代もの人びとが悔やむに違いない。

橋爪 大三郎（社会学者）

最初は九月入学だった

入学式はやっぱり、桜の咲く春でなければ、と思っているひとがいる。

でも、学校教育が始まった明治時代、入学は九月だった。校庭に桜の樹も植わっていなかった。桜は多くの品種があり、いろいろな時期に咲くもので、数カ月にかたって咲いたり散ったりしていた。

江戸時代に品種改良されたソメイヨシノを、政府が音頭をとって、学校の校庭や公園、河沿いの土手に植樹した。同じ遺伝子をもっていて、一斉に開花する。春は桜が満開、はつくられた風景なのだ。

学校が九月始まりだったのは、そもそも学校が欧米から輸入された制度だったからだろう。明治政府は教育の重要性をよくわかっていて、早いテンポで全国に学校を建設し、教育の普及をはかった。近代化(当時の言葉では、文明開化)に、教育は不可欠だ。文字の読み書きを教え、算数を教え、理科や地理や歴史を教える。財源が豊かでないなか、国家予算のかんりの部分を投じて、就学率や識字率の向上にめざましい成果をあげた。明治政府はよくやった。

学校のライバルとして、江戸時代以来の寺子屋や塾があった。学校の普及にともない、急速に没落した。女子教育の場としては、女紅場(じょこうば)が根強く残っていた。裁縫を教える。数十年もするとようやく女紅場は廃れ、女子も学校に行くようになった。

寺子屋や塾は、読み書き算盤、そして、漢文の素読を行なう。それに対して学校は、国語、算数、修身、理科、歴史などの科目を教える。教えるなかが、がらりと入れ替わった。でも、ふさわしい教材も教員もない。仕方がないので最初は、英語の小学校教科書を直訳して間に合わせ、教員は適当に採用した。

という具合に、九月入学でやっていたのが、明治二〇(一八八七)年前後に切り替わった。明治二〇年に徴兵のやり方が変わり、届け出の時期が九月から四月になった。明治二二年から国の会計年度が、四月↗翌三月に切り替わることになった。これに合わせて、全国の師範学校や小中学校が四月入学になったのは、明治二一年のことだった。要するに、せっかく国際標準だったものが、ローカルな日本の都合で、四月入学に変えられてしまったのだ。

大学はもっと長いあいだ、九月入学のままだった。旧制高校と帝国大学が四月入学に切り替わったのは、ようやく大正一〇(一九二二)年のことである。

四月入学は、日本が統治していた台湾や朝鮮半島にも適用された。このエリアでは、四月入学、三月卒業が地域標準になった。

入学時期はともかく、日本の公教育はおおきな成功を収めた。日露戦争の際、捕虜になったロシア軍の兵士に読み書きできない者がかなり混じっていたので、日本側はびっくりしたという。日本の兵士はみな、読み書きができたのは言うまでもない。

九月入学と四月入学

世界の学校は大部分が九月入学で、日本は四月入学。これで問題なかったのか。

大きな問題はなかった。むしろ、好都合だったかもしれない。

当時、外国への移動は船だった。飛行機であつたと言間に到着、とは行かない。のんびり海を行くので、一、二カ月はかかる。九月入学の国では五月か六月卒業なので、留学する場合には夏休みに移動する。三月卒業の日本はそれがもう少し早まった感じになる。移動が長距離なのと準備に時間がかかるのを考えて、ちょうどよいとも言えたのである。

留学のタイミングを考えなければならないのは、高等教育（大学）である。小中学校は親の都合で移動して、学途中でもクラスに入れてしまえばよい。企業の場合は、転勤の時期など決まっていけないので、小中学校が何月入学でも関係ない。そして、大学も、世界は九月入学／日本は四月入学、で実害はなかった。

七〇年代になって、航空機での移動が一般的になると話が違ってきた。地球の裏側まで一日か二日で移動できる。九月／四月の半年のギャップが障害になる。入学、進学のと時期がずれているので、外国に留学したり進学したりするのに、とても不便である。

九月入学で揃っている、ヨーロッパの域内や、ヨーロッパアメリカをまたがる移動はなんの不都合もない。中国も九月入学。世界のほとんどの国は九月入学なので、やはり不都合はない。そうでないのは日本と、大学が二月入学の韓国ぐらいである（小中高は三月入学）。アメリカの大学が世界中から学生を集めているのは、九月入学で、タイミングが揃っていることも大きい。日本は割りを喰っているのである。

日本の高校にいるあいだに、海外に一年留学しようとする、どうなるか。しばらく前は、学年を一年留年しないといけなかった。夏休みが終わったところで日本の高校を休学して、海外の高校の新学期にすべりこむ。一年間、海外で過ごしたあと、またもとの高校の、一学年下に復帰する。せっかくの留学なのに、とてもコストがかかる。（最近では、休学でなく留学にして、海外の授業や成績を

日本の単位に振り替え、もとの学年に復帰するやり方でもできるようになった。）

大学でも、同じように日本の大学を休学または留學扱いにて、海外の大学に一年間だけ在籍して、留學しようと思えばできる。このように、九月入学／四月入学の違いは、あまり決定的な障害にはならない、いちおう。

清華合同プログラム奮闘記

それでも、四月入学は、国際化の大きな障害なのである。最大の障害、と言っているかもしれない。将来のことを考えるなら、一年でも早く、九月入学に移行したほうがよい。せめて大学と大学院は。

政府の下部組織だった国立大学が、国立大学法人になった。いろいろな制度改革を、自分で決められるようになった。東京大学はさっそく、九月入学に移行できないかと真剣に検討してみた。さすがだ。検討の結果は、無理だから諦めます、だった。理由は二つ。ひとつは、高校が三月卒業なので、九月入学まで半年時間が空いてしまう。そのあいだの過ごし方にいいアイデアがなかっ

た。もうひとつは、東大だけ六月卒業になると、企業に就職するのに問題が起こる。企業側の理解もえられそうにない。

東大だけでなく、全部の大学が九月入学にすれば、そして、小学校／高校も揃って九月入学にすれば、どちらの問題も解決する。いまがそのチャンスだ。こんなチャンスは、二度とやってくるまいだろう。

いまから二〇年ほど前、当時勤務していた東京工業大学で、国際室ができることになった。学長直属の組織で、東工大の国際化戦略を立てるのだ、という。どういうわけか、私も国際室のメンバーに選ばれた。毎週会議があつて、さんざん議論した。これから台頭するのは中国ですから、中国の大学と協力しましょう。よろしい。中国で理工系トップは清華大学ですから、清華大学を選びましょう。よろしい。北京のキャンパスに東工大の分校をつくって、英語と日本語で授業を行ない、東工大の学位を授与しましょう。よろしい。善は急げで代表団が北京に飛んだ。清華大の担当副学長と交渉する。先方も前向きだが、注文がついた。分校という名前はよくない、対等に協力する「合同プログラム」で行きましょう。

よろしい。北京だけでなく、東京にも一年滞在して、東工大の研究室で学ぶプログラムにしましょう。よろしい。(でも、日本の物価は当時、中国の三倍から一〇倍。清華大学生の滞在費を奨学金として東工大が用意するしかない。安上がりのはずが、金食い虫のプログラムに化けてしまった。)東工大の学生もこのプログラムに参加するようにしてください。よろしい。清華大側の要求だから仕方ないが、プログラムの設計が二倍複雑になった。専門は、ナノテク・コース、バイオ・コースで行きましょう。清華大側の希望だ。よろしい。でも、社会理工学コースも入れてください。こうして一五年前、三コースからなる「清華大―東工大大学院合同プログラム」がスタートした。

これは、日本で最初にできた、大学院のデュアルディグリー・プログラムである。修了すると、東京工業大学と清華大学の両方から、それぞれ修士号(マスター・ディグリー)が与えられる。前例のない試みなので、文部科学省に何回も足を運び、相談を重ねながら制度を設計した。

海外の大学と共同でプログラムをつくるのだが、新しい大学ではない。新しいコースをつくり、それを東工大、

清華大の両方から単位認定するのである。大学関係者でもあんまり知らない規則がいっぱいみつけた。

- ・ 東工大の修士課程の必修単位は三〇単位である。そのうち一〇単位(だったと思う)は、他大学の単位を「認定」できる。また、入学前によそで履修した単位も、八単位(だったと思う)を上限に、「認定」できる。清華大の修士課程の必修は二六単位である。そのほか、東工大とよく似た規定がいろいろある。認定できる単位が多いほど国際協力がやりやすい。
- ・ まるまる一学期在籍していないと、授業を履修できず、単位も取得できない。たとえ一週間の集中講義でも、その期間だけ在籍すればよいわけではない。まるまる一学期在籍しないといけない。そして、在籍期間に対して授業料が発生する。
- ・ 東工大は、修士課程の必修単位を取得するほかに、修士論文を英語または日本語で書いて、論文発表に合格しなければならない。清華大は、同じく修士論文を英語または中国語で書いたうえ、学術雑誌に投稿論文が一編以上採択され、論文発表に合格しなければならない。つまり、東工大より厳し

い。

規則は、もっといっぱいある。それらをすべてクリアしながら、両大学の学位(修士号)を二年半で取れるプログラムを設計する。ポイントは、清華大が開講する講義を東工大の講義にもし、東工大が開講する講義を清華大の講義にもすることだ。ひとつの講義で両方の大学の単位が取れる。口で言うのは簡単だが、シラバスを日本語／中国語でつくって、事前に相手大学の教授会に諮らなければならない。大変な手間だ。

清華大の学生は学費免除にした。安い学生宿舍も手配した。どちらも簡単ではない。なにしろ留学生は東工大に、一〇〇〇人もいるのだ。サポートの財源がまるで足りない。

なんでそこまで手間をかけてこんな面倒なことをするかと言うと、本来なら二年十二年で四年かかるはずのところを、二年半に圧縮するメリットをうみ出すためだ。学生がメリットを感じなければ、国際交流は進まない。魅力あるプログラムを開発しないと、日本の大学は地盤沈下してしまうのである。このプログラムは一六年目に入り、修了生は、専門の学力が優秀なのはもちろん、英

語／日本語／中国語を使いこなす、国際的な人材に育っている。

やはり四月入学がネック

このプログラムの運営を一〇年以上やってみて、つくづく思ったのは、四月入学が国際化をどんなに阻んでいるか、ということだ。

九月入学にしないと、日本の大学の国際化は進まない。このままでは、優秀な学生はみな、海外の大学や大学院に渡ってしまうだろう。そして、日本の大学や大学院に、海外の優秀な学生はやって来ないだろう。

二〇年も前から、大学の「国際化」が叫ばれている。うまく行っているところはひとつもない。たった一億人の日本人から優秀な学生を集めても、タカが知れている。アメリカの大学は、世界数十億の人びとから、より拔きの学生を呼び込んでいる。英語で教える。奨学金が豊富。そして、外国人を差別しない大学文化。この三つが決め手となって、世界から優秀な学生がアメリカを目指す。そこですます、評価が上がり、学生が集まる、という

好循環が起きている。ヨーロッパの大学も、そこそ人材を集めている。それ以外の国に留学するのは、第一志望から外れた二流以下の人材、ということになっている。日本が世界経済で、それなりのポジションを保っているのに、欠かせないのがすぐれた大学だ。過去二〇年、日本はノーベル賞を連発しているが、これは過去の遺産で、これからはじり貧になる。日本の大学に集中投資し、アカデミック・マネジメントを磨き上げ、世界から人材が集まる大学に生まれ変わらせなければならない。

なぜ世界から学生が集まらないか。英語で講義や研究ができる教員が少ないからだ。東工大はだいぶ前、講義の二〇％を英語にする、と目標を立てた。だが実現にはほど遠い。学生が英語の講義を理解できれば、英語ができる教員を世界からリクルートすることができる。教員が先か、学生が先か、ニワトリとタマゴだが、頭の固い教員より、学生のほうが適応力があるだろう。まず、学生に高い英語能力を要求しよう。入試の英語よりも、出口の英語を重視しよう。

そこで私は考えた。日本人の教員が下手な英語で講義するより、ネイティブの講義が絶対よい。しかし、外国

から教員を呼んでくると経費がかかる。オンラインで結ばばいい。たとえば「基礎物理」みたいな講義を、アメリカの大学から中継で結び、物理の単位にしても英語の単位にしてもよいことにする。時差があつて不都合なら、オーストラリアと結ばばいい。かかるコストとさえ、ビデオカメラを持ち込み、インターネットで結ぶ経費ぐらいだ。こうして、学生が英語の授業に慣れてくれれば、世界から優秀な科学者を日本の大学の教授にスカウトできるだろう。

こういう深慮遠謀のもと、国際室のアレンジで、アメリカの名のある私立大学に相談に行った。教養課程の英語の講義を、東工大に中継させてもらえませんか。返事は、そういうのならいまやっているよ。私立大学が何十も連合して、教養科目を、中継で結びあうのだという。それを調べてみなさい。

ほかにいろいろ相談した。やはり一番の問題は、日本の大学とアメリカの大学で、学期の始まりが一緒でないこと。同じ時期に開講しないとリアルタイムで中継できない。録画ではだめかといういろいろ考えてみたが、手間がかかるばかりだ。このプランは問題山積でペンディン

グになり、まだ実現していない。

九月入学の利点

大学のレベルを向上させる。日本の最優先課題だ。それには、日本の大学を、日本語と英語のバイリンガルな空間にする。これも必須だ。それには、講義の一部を、英語圏の大学から中継することである。これも必須だ。それには、学期をアメリカなど世界の大学と揃えておく必要がある。

九月入学は、単なる入学時期の問題ではない。世界の学校の教育コンテンツを、相互にシェアできるかどうかの問題である。四月入学のままで、日本だけが、世界の大学連合から取り残されてしまうのだ。

こんな声もあるだろう。——日本の大学なのだから、日本語でいいではないか。いままでそれでやって来た。日本語で用が済んでいたものを、英語にするのは、大変な手間である。教員にとっても、学生にとっても。

日本語ですべて用が足りるのは、すばらしいことではある。多くの第三世界の国々は、そうは行かない。植民

地の時代の宗主国の言葉で高等教育ができていて、自国語で大学が営めないのだ。知的思考をすることもできない。日本語ではそれができる。われわれは、江戸時代の儒学者や蘭学者、近代に日本語で学問の基礎を開いた人びとに、感謝しなければならない。

のではあるが、日本の大学が現状でいいということにはならない。英語のプログラムをどしどし取り入れたければ、すぐできる。日本語を偏愛する教員らはそのままにして、英語も使える学生と英語を使える教員で、それと並行するプログラムを走らせるのだ。東工大は、修士論文も博士論文も、英語でよいことになっている。ゼミや論文発表も英語でよい。いまの制度のままで、そっくり英語の大学に生まれ変わることができるのだ。

やればできる

東京工業大学を退職して五年のち、新設の大学院大学至善館に勤めることになった。いわゆるMBAコースの大学だ。特長は、授業は英語／日本語のバイリンガルで行なう、経営やファイナンスのほかにリベラルアーツも

重視する、の二点である。二〇一八年九月に開学して、いま三期生の募集の最中だ。一学年八〇人。英語クラスと日本語クラスが半々で、学生も日本人と外国人が半々。私は宗教社会学を担当しているが、英語と日本語で、同じ講義を繰り返す。リベラルアーツの同僚に、竹田青嗣教授、宮台真司教授がいるが、やはり英語と日本語の講義を担当している。学生の評判はすこぶるよい。この三月からはコロナで、すべて遠隔講義になった。かえって効果があがっているようだ。九月入学で英語、の大学がちゃんと動いているではないか。

学生の大半は企業に在職したまま、週末や夜間の講義に参加するのだから、入学時期はいつでも関係ない。よって、九月でもよい。海外から応募する学生にとって、もちろん九月入学は便利である。

新設大学のよい点は、反対勢力がないことである。初めからそういう設計なので、誰も文句を言わない。学生諸君は十分この環境を楽しんでいて、講義はにぎやかだ。

これは、小さな新設大学だから、例外なのか。いや、立命館アジア太平洋大学も、沖縄科学技術大学院大学も、

設計プランのすばらしい大学はうまく行っているではないか。要はアイデアと、原則と、実行力なのだ。

九月入学が見送られたら

絶好の機会があったのに、九月入学は見送られる見込みだ。

九月入学ができなくても、まあよい。九月入学は手段にすぎない。要は、日本のトップランクの大学が、しっかり国際化すればよいのである。大学は未来に向いて開いた窓である。イノベーションの種は、実験室に、研究者の頭のなかに、転がっている。アメリカやヨーロッパの大学だって、何から何まで理想的ではない。ほんとうに優れた人間をピックアップして、大学の指導的なポストに就ければよいのだ。出身国に関係なく。年齢に関係なく。性別に関係なく。人柄のよしあしに関係なく。日本はアカデミック・マネジメントがなっていない。アカデミック・マネジメントとは、この仕組みをつくって動かすことに尽きるのである。

日本人はいつから、こんなに同質性を重視し、同調圧

力をよしとするようになったのだろうか。

大日本帝国は多民族国家だった。大和民族のほかに、台湾の漢民族や、朝鮮半島の朝鮮民族がいた。互いに違うのは明らかだ。だからことさらに、天皇を推戴し、天皇の前での平等を強調した。

戦争に敗れたあと、自分たちの社会と国家が、異質なものの集まりだという感覚がなくなった。異質なものはアメリカとしてまとめられ、海の彼方で日本をウォッチしている。日本人はアメリカに対して、憧れと憎しみの混ざり合った複雑な感情を抱く。それは、自分をよく理解できていないということである。

日本は国際化しなければならないという。九月入学だという。それはどういうことか。それはなぜ必要か。それをきちんと、自分の言葉で誰かが語ることができたら、九月入学の話が出たとき、大あわてすることはなかったろう。

九月入学に反対するのは簡単だ。理由なら、二〇でも三〇でも見つけることができる。移行期が混乱する。教員が足りない。教室が足りない。費用がかかる。メリックがはつきりしない。

私に言わせれば、どれも大したことはない。日本は、新産業をうみだし、価値をうみだし、富をうみだし、雇用をうみだし、希望をうみだす金のガチャウを必要としている。それは、大学だ。その大学を育てるのに、九月入学が必要だ。それで十分。それ以外のどんな困難も解決し、どんなコストも引き受けるべきなのである。

橋爪 大三郎（はしづめ だいさぶろう）

1948年生まれ。東京大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。社会学者。東京工业大学名誉教授、大学院大学至善館教授。宗教学、教育学、政治学などをテーマに、幅広い言論活動を行っている。

著書に、『言語ゲームと社会理論—ヴィトゲンシュタイン・ハート・ルーマン』（勁草書房、1985年）、『はじめての構造主義』（講談社現代新書、1988年）、『橋爪大三郎コレクション—Ⅰ〜Ⅲ』（勁草書房、1993年）、『言語派社会学の原理』（洋泉社、2000年）、『ふしぎなキリスト教』（共著、講談社現代新書、2011年〔新書大賞2012受賞〕）、『文化大革命の真実 天津大動乱』（監修、ミネルヴァ書房、2013年）、『小室直樹の世界—社会科学の復興をめざして』（編著、ミネルヴァ書房、2013年）、『丸山眞男の憂鬱』（講談社選書メチエ、2017年）、『小林秀雄の悲哀』（講談社選書メチエ、2019年）などがある。

15分で読む 九月入学はなぜ必要か ブックガイド

出版社	ISBN (978)	書名	著者名	本体価格	刊行
勁草書房	4326298655	選択・責任・連帯の教育改革——学校の機能回復をめざして【完全版】	堤清二・橋爪大三郎編	品切れ	1999
太陽企画出版		あなたも息子に殺される——教育荒廃の真因を初めて究明	小室直樹	品切れ	1982
新泉社	4787711052	社会構造とパーソナリティ (新装)	タルコット・パーソンズ著、武田良三監訳、丹下隆一・清水英利・小尾健二・長田攻一・川越次郎共訳	7000	2011
明治図書出版	4180537273	人間論	エルヴェンシュウス著、根岸国孝訳	品切れ	1966
岩波文庫	4003362211	エミール 上	ルソー著、今野一雄訳	1100	1962
岩波文庫	4003362228	エミール 中	ルソー著、今野一雄訳	1130	1963
岩波文庫	4003362235	エミール 下	ルソー著、今野一雄訳	1020	1964
岩波文庫	4003347218	徳川時代の宗教	R. N. ベラー著、池田昭訳	1000	1996
文部省 社会教育局		産業日本の教育	山口八左右	—	1935
朝日出版社	4255004068	だれが決めたの? 社会の不思議	橋爪大三郎	1500	2007
慶應義塾大学 出版会	4766421316	日本教育史——教育の「今」を歴史から考える	山本正身	3000	2014
勁草書房	4326251414	現代日本教育費政策史——戦後における義務教育費国庫負担政策の展開	井深雄二	1800	2020
春秋社	4393376034	これからの大学	松村圭一郎	1900	2019
晶文社	4794971623	シラバス論——大学の時代と時間、あるいは〈知識〉の死と再生について	芦田宏直	2700	2019
青土社	4791772445	教育・権力・社会——ゆとり教育から入試改革問題まで	大内裕和	2200	2020
創元社	4422360010	われらの子ども——米国における機会格差の拡大	ロバートD. バットナム著、柴内康文訳	3700	2017
ちくま新書	4480072375	教育格差——階層・地域・学歴	松岡亮二	1000	2019
東京大学 出版会	4130513463	グローバル化時代の教育改革——教育の質保証とガバナンス	東京大学教育学部教育ガバナンス研究会編	3200	2019
日本評論社	4535563452	公教育をイチから考えよう	リヒテルズ直子・苫野一徳	1700	2016
平凡社 ライブラリー	4582765267	学歴の社会史——教育と日本の近代	天野郁夫	1400	2005
小学館	4098401703	学校教育の戦後70年史——1945(昭和20) —2015年(平成27)	日本児童教育振興財団編	1600	2016
ミネルヴァ 書房	4623078011	日本国民をつくった教育——寺子屋からGHQの占領教育政策まで	沖田行司	2500	2017

一書店現場から一

沖縄書店大賞、これまでとこれから

森本 浩平（ジュンク堂書店那覇店）

ジュンク堂書店那覇店、そして店長として

ジュンク堂書店那覇店は、沖縄県内最大の大型書店として2009年に開業した。まず大前提で考えるべきことは、沖縄という本土とは異なる特異とも言える土地で、いわゆる内地の企業が「いかにして受け入れてもらえるのか」、「受け入れてもらうために沖縄県の方々が自分たちに對して何を求めているのか」、「そして何を必要とするのか」といったことであり、店長という立場でそれらについて常に考えてきた。

店舗のマネジメントや売り場づくりをしながら、本を単に売るだけでは不十分なのである。ジュンク堂が沖縄で果たすことができる役割は、メディア的な「情報発信拠点」であることであり、そうあり続けることである。本、それ自体がメディアである。繰り返しになるが、本がメディアであるために書店が「情報発信拠点」でなければならぬ。

店長として約10年間、沖縄のニーズに沿った運営を心掛けてきた。一例を挙げると、本を通じて店舗イベントである。2009年の開業から様々なイベントを1000回ほど開催している。

テーマは多岐にわたり、基地、貧困、人権、教育などの沖縄における様々な問題を扱ってきた。社会問題以外にも子ども向けイベントも多く行った。

それらのイベントは、地元メディアと共に連携しながら発信してきた。メディアがイベントを取材し、報道するということは、それらのイベントには「正しく有意義」な情報であり、そこにこだわって行ってきた。

また、自分自身でも地元メディアにて出演する機会を得て、本の紹介などを積極的に行ってきた。2010年からラジオ番組で本の紹介コーナーを担当し、この4月からは朝の情報番組でニュースコメンテーターという大役を任せられ、併せて本の紹介を行っている。メディア出演の際は、当然ながらジュンク堂書店那覇店の店長として、かつ、沖縄県の書店人として、できる限り出版業界、ひいては沖縄県全体が盛り上がることを意識しながら情報発信を心掛けている。

沖縄県内最大の書店としての役割を果たすべく読書人口を増やす取り組みを継続し、沖縄において必要とされる書店であり続けていくよう努力する次第である。

沖縄書店大賞誕生

沖縄の書店、出版界を簡単に紹介する。沖縄県内には約80の書店があり、地方出版社も多数存在し、沖縄独特の出版文化が形成されている。しかしながら全国の出版不況の波は、沖縄県にも同様に押し寄せ、書店も地元出版社も切磋琢磨しながらその波に飲み込まれないように抗い続けてきた。

そんな沖縄には、様々な歴史的背景によって「ゆいまーる」という精神が沖縄県民に根付いている。これは沖縄の方言で、「助けあう」「一緒にがんばろう」というような、平和を願って共に喜び、共に楽しみ、共に栄えようという人間の絆を意味する言葉である。私は関西から、11年前に沖縄へ転勤してきたが、ずっとこの「ゆいまーる」の心に触れ、沖縄の方々には尊敬の念を抱くようになった。沖縄の出版業界にもこの「ゆいまーる」精神は大きく反映されており、沖縄の出版社と書店は横のつながりが強い。最低限の競合者としての対峙はあるが、お互いに情報交換をしながら、共に発展に向かおうと努めている。そうした業界の絆から生まれた取り組みが「沖縄書店大賞」である。

沖縄書店大賞とは

「沖縄書店大賞」は、本屋大賞実行委員会が運営する「本屋大賞」同様に、沖縄の書店員による投票でノミネート作品及び受賞作が決まる。第1回が2015年に行われて以降、今年で第6回目となるが、沖縄県内の読書人の注目を集め続けてきている。

選考は、12月頃から第一次投票を実施し、投票作品上位5作品をノミネート作品とし、年明け1月頃に、第二次投票が行われ、受賞作品が決まる。

企画趣旨は「沖縄県民に対して読書のきっかけを提供すること」、「書店に足を運んでもらう機会を作ること」である。そして、そのために「沖縄書店大賞」の話題性、インパクトができる限り大きくなることを目標としている。具体的には、まずはノミネート作品が決まったことが

ニュースになり、そして大賞発表時に地元テレビニュースにおいて、トップニュースになることが目標となる。インパクトがあるものにするためには授賞式に受賞者を沖縄県外から招待すること、マスコミに取り上げてもらうためには、プレスリリースのタイミングも重要になってくる。以下では、第1回から第6回までの話を書かせていただく。

第1回(2015年)

第1回のときは、「小説部門」及び「郷土書部門」の2部門を設けていた。沖縄県内外の出版社から刊行されたすべての沖縄関連本を対象書籍としていた。

第1回の小説部門の大賞は、池井戸潤さんの『銀翼のイカロス』、郷土書部門の大賞は、沖縄の新聞紙面の4コマ漫画が本になった『おばあタイムス』となった。授賞式終了後、池井戸さんによる沖縄県内における初のサイン会が開催され、大いに盛り上がった。

第2回(2016年)

第2回からは、より多くの世代に波及することを目的とし、「絵本部門」を増やした。第2回の選考期間には又吉直樹さんの大ベストセラー『火花』があり、投票前から大賞が間違いない雰囲気があった。沖縄にもルートがある又吉さんを授賞式・会見に招くことができれば、話題づくりとして絶好の機会である。多忙な作家をギャラなし、渡航費なしでどのように招待するかを考

えなければならなかった。

調べてみると又吉さんは漫才コンビ「ピース」として那覇市内にある「よしもと沖縄花月」で数か月に1回は出演していることがわかったので出演機会を見計らって授賞式の日程を組んだ。そこから吉本興業関係者に対して「ピース」の「よしもと沖縄花月」での出演を授賞式のタイミングになるよう打診すると、運よくそのタイミングでの出演が決まった。その後、すぐに文藝春秋の担当編集者に連絡を入れると、又吉さん本人から快諾してもらえた。

第2回の授賞式・会見では、又吉さんと「郷土書部門」の大賞に選ばれた『人生には「まさか」の坂がある』の著者でアウトローの道を経たことがある異色の三線奏者・安里賢次さんの二人で会見が行われた。

沖縄県内のテレビ局、新聞社、雑誌社などの多くのメディアで報道され、県内におけるトップニュースとなり大きな話題となった。

第3回（2017年）

第3回の「絵本部門」では、お笑い芸人の西野亮廣さんによる『えんとつ町のプペル』が大賞に選ばれ、又吉さんのケースと同じく、来県スケジュールに合わせて授賞式・会見の日程を決めた。また、2017年は高校野球における有名監督である沖縄水産高校・裁監督を描いた映画『沖縄を変えた男』が沖縄県内で大きな話題となっており、その原作である『沖縄を変えた男 裁弘義——高校野球に捧げた生涯』が「郷土書部門」の大賞に選ばれ、著者である松永多佳倫さ

んと西野さんの二人で会見が行われ、2016年に続いてメディアで大きく報道された。

第4回(2018年)

第4回の「小説部門」では、沖縄県出身である知念実希人さんの『崩れる脳を抱きしめて』、「郷土書部門」では朝日新聞社と沖縄タイムス社合同編集の写真集『沖縄1935』がそれぞれ大賞に選ばれた。

記者会見終了後、知念さんが地元ラジオ番組に多数出演し、書店でのトークイベントも開催されることになり、大いに盛り上がった。

第5回(2019年)

過去4年間の実績も手伝って、これまでで一番の大きな反響があった。

「小説部門」では、直木賞受賞作で戦後の沖縄が舞台の真藤順丈さんの『宝島』、「沖縄部門」は、藤井誠二さんの『沖縄アンダーグラウンド——売春街を生きた者たち』、「絵本部門」はヨシタケシンスケさんの『おしっこちよっぴりもれたろう』がそれぞれ大賞に選ばれた。

授賞式・大賞会見には大賞受賞者及び準大賞受賞者の全員が参加し、それに加えて玉城デニー沖縄県知事にも立ち会ってもらったことができた。

当日の地元のテレビニュースでは大きく報じられ、受賞者の方々が生出演した。その後も受賞

者の方々が各メディアで多く取り上げられた。

沖縄部門の大賞本は単価が2000円もするにもかかわらず、県内のコンビニでも発表に合わせて、大賞帯を巻いて販売が開始され、本の実売にも大きく反映された。藤井さんはこれを機に地元紙で連載が始まるなど沖縄県内での反響は大きかった。

第6回（2020年）

「沖縄部門」では、実際に沖縄の暴走族のメンバーとなって10年もの歳月をかけて潜入取材、昨年大きな話題となった、社会学者・打越正行さんの『ヤンキーと地元——解体屋、風俗経営者、ヤミ業者になった沖縄の若者たち』、「小説部門」では、第4回にも受賞した知念実希人さんの作品『ムゲンのi』、「絵本部门」では昨年に引き続き二度目の受賞となったヨシタケシンスケさんの『ころばいいのに』が大賞に選ばれた。今年の会見は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止になったが、前回の大賞受賞者である藤井誠二さんがスピーチで「沖縄を描く作者にとって、最も欲しい賞であり、一番の名誉である」と言及したとおり、これからも沖縄書店大賞が発展し、本を手取るきっかけになれば本望である。

新たに「この沖縄本がスゴい！」を創設

2019年は、沖縄書店大賞と対になる賞として「この沖縄本がスゴい！」という新たな賞

を作った。こちらは、沖縄県内出版社の書籍の中から、出版年月は問わず、実行委員のメンバーがその年に読んでほしい1冊を独断で選び、県内各書店の店頭一等地で販売を展開し、メディアとの連動で話題づくりをするという趣旨の企画である。

第1回では、2012年に出版された『復帰前へようこそ——おきなわ懐かし写真館』が大賞に選ばれた。沖縄本土復帰の1972年以前の沖縄風景を1冊にまとめた写真本であった。それがテレビ等で大きな話題となり、受賞後の県内での売上は3000冊近くにも達した。こちらの賞も県内の出版業界が盛り上がる手段の一つとして、これから毎年取り組む予定だ。

最後に

沖縄書店大賞は県内書店が一丸となる大きな機会でもあり、これらの賞と共に業界が力を合わせ盛り上がり、それぞれが発展していくことを願う。

森本 浩平（もりもと こうへい）



筆者 近影

新型コロナウイルスと司書のいる高校図書館

1 司書のいる学校図書館

みなさんは、学校図書館にどんなイメージがありますか？

学習室？ 全集みたいな難しくて古い本があるところ？ そんなイメージでしょうか？

ところが、いま、司書のいる学校図書館は違います。新刊も書店と変わらない品揃えで入ります。公共図書館と同じようにレファレンスサービスや予約サービス、必要な文献を取り寄せる文献複写サービスも行っています。図書委員と一緒に季節にあわせた行事にも取り組み、授業でも活用されています。

木下 通子（埼玉県立浦和第一女子高等学校図書館司書）

学校図書館には「学校図書館法」という法律があり、「学校のエデュケーションの展開に寄与するとともに、児童又は生徒の健全な教養を育成することを目的として設けられる学校の設備」と定義されています。学校図書館には読書を支えるだけでなく、先生の授業や児童生徒の学習を支える学習センターとしての役割が求められているのです。

ここでは、新型コロナウイルス感染症で休校になった約4か月に、私が司書としてどんな活動を行ったかということをお伝えするとともに、埼玉県の高校図書館の活動を紹介していきます。

2 とつぜん学校が休校に

私は3年前に担当部長兼主任司書として浦和第一女子高校に着任しました。本校は県内でも有名な女子進学校で、東大や医学部を目指す女子高校生に、司書として通うするかしら、とドキドキしていました。が、転勤してみると高校生はやっぱ高校生で、本好きな生徒も多く、毎日楽しいです。

本校の蔵書は約5万5000冊あり、そのうち英語の多読本が約1万冊あります。雑誌を16誌、新聞も5紙購入していて、年間1500冊ほどの新刊を購入しています。

2019年度の生徒1人当たりの貸出が36・9冊。教職員や定時制の生徒、先生も含めて、昨年1年間で44・254冊の貸出がありました。本校は、スーパースイエンスハイスクール(SSH)、スーパーグローバルハイスクール(SGH)の文部科学省指定校で、日常の読書だけでなく、探究学習でも学校図書館が活用されています。

年度末の処理をしながら、いよいよ新学期準備と想っていたら、政府から3月2日から春休みに入るまで学校を休校にするという要請が出され、とつぜん休校になりました。埼玉県は2月28日が学力検査(高校入試)、生徒は入試業務にもなつて2月28日から3月4日まで自宅研修。入試業務が終わったあと、3月5日から学年末テストという日程になっていました。ところが、とつぜんの休校で、学年末テストもないまま、長いお休みになりました。4月に新学期を迎えられると想っていたのに、4月8日に緊急事態宣言が発令され、5月の連休明けには解除されるかと思っていました。が、休校が再び延長。6月1日から分散登校が始まり、6月22日からやっと通常授業が始まりました。本当に長い4か月でした。

文部科学省から4月23日に「学校休業中の学校図書館の取組事例」が出されました。公的に学校図書館についての指針が出されたのは、これが初めてだと思います。文部科学省から出された事例は次の4つで、時間を区切つての図書の貸出し、分散登校日を活用した図書の貸出し、郵送等による配達貸出し、学校司書によるおすすめ絵本の紹介など、と、本を貸すことを中心にした内容

でした。埼玉県でも感染拡大防止にあたってのガイドラインが出され、学校図書館については入館時に手洗いを徹底する、生徒の利用する時間帯を分散するよう工夫し、密集させないように配慮することの2点があげられました。この点を踏まえて生徒にどんなサービスができるかを考える日々が始まりました。

3 手探りの新学期

3月14日に予定していた3年生の卒業式は、規模を縮小して行うことができましたが、新型コロナウイルスを巡る状況はどんどん深刻になっていきます。このままでは予定通り新学期を迎えるのは無理だろうという予測のもと、各学校が臨時登校日を設けました。本校では3月下旬に学年ごと、クラスを分散しての登校日が設けられ、1・2年生に本の貸出をすることができました。2日で約1000冊の貸出がありました。

4月に入り、いよいよ埼玉県にも緊急事態宣言が発令されることになりました。入学式ができないまま、休校に入った学校も多かったようですが、運良く本校の入学

式は緊急事態宣言発令前の4月6日に予定されていたので、短時間で入学式を行い、生徒に必要な連絡をすることができました。そのときに図書館も新1年生に資料を配りました。

本校では図書館の予算で、有料データベースとして「ジャパンナレッジLib」と「朝日けんさくくん」を導入しています。3月3日にはジャパンナレッジLibの学外アカウントが発行され、生徒が自宅でジャパンナレッジLibを活用できるようになりました。そこで、ジャパンナレッジLibの学外IDを連絡する「図書館だより」を発行。「国立国会図書館サーチ」など、生徒が知っておく役に立つ無料のデータベースの使い方を掲載しました。この頃には、いくつかの私立の学校図書館が、学校のホームページを使って読書や探究学習に役立つまとめサイトを作っていました。学びのサイトや各出版社が無料開放した電子書籍を案内していて、学校図書館界でも話題になっていました。本校でも生徒にホームページを使って情報提供をしたいと思っていたのですが、許可が下りず、紙での配布にとどまりました。

先生方のオンライン授業もどんどん始まります。埼玉

県では各学校が「Google Classroom」(グッド Classroom)を導入して、生徒への授業配信を始めました。どの県立高校よりも早くオンラインでの授業を配信した本校では、5月末までにオンライン動画を1100本配信しました。動画を作る際に、図書館に資料を探しに来る先生もいらして、授業の中でこの本は図書館にありますと紹介していただいて、とてもうれしかったです。図書館も4月17日からClassroomに「図書館room」を開設。生徒に情報発信を始めました。

4 休校中の取り組み

(1) Google Classroom 「図書館room」

6月20日現在、360人の人が図書館roomに入っています。図書館roomへの参加は自主参加で、登録しているのは1年生が多いです。図書館roomでは、図書館の歴史や図書館の使い方の説明、本校で契約している有料データベース「ジャパンナレッジLib」「朝日けんさくくん」の使い方、「なるほど統計学園高等部」や「新書マップ」など知っておくと便利なサイトの使い方などを

紹介しています。

4月17日に図書館roomを開設し、平日はほぼ投稿してきました。司書は、先生方の授業のClassroomにも入れるので、いくつかの授業もののぞかせてもらっています。オンラインで出たレポート課題の情報を調べるときにこういうサイトを使うと便利です、などの投稿をした日には、生徒からくわしい使い方を教えてくださいとレファレンスメールが来てやりとりすることもありました。メールでやりとりできると記録が残しやすいので、レファレンスだけでなく、予約・リクエストもメールで受け付けることにしました。本校図書館の蔵書検索が自宅で行えるようになってからは、申し込みがぐんと増え、約2週間で26件の予約申し込みがありました。

Classroomにはアンケートフォームもあって、情報を提供するだけでなく、生徒の意見を聞くこともできます。紙のおたよりだと、URLを紹介してもパソコンで打たなくてはいいかもしれませんが、ウェブ上でURLを紹介するとそのままクリックすればサイトに飛べるので、とても便利に使っています。

(2) 電子図書館サービス「School e-Library」トライアル参加

他校の司書から情報を得て、4月16日に電子図書館サービス「School e-Library」のトライアルを申し込みました。電子書籍はもともと興味があったのですが、電子書籍を導入するだけの予算的余裕がなく、とてもいい経験となりました。

全校生徒が1000人以上いる学校なので、アカウントを500いただきました。4月20日にClassroomで生徒に告知をし、パスワードを希望する生徒からメールをもらって、一人一人にIDとパスワードを伝える形で登録をしました。トライアルを体験した生徒は143人。5月末でトライアル期間が終わったので、6月に入ってから利用アンケートをとりました。

School e-Libraryのパスワードを申し込んだ130名から回答があったのですが、「利用してよかった」と回答した人が34・6%、「パスワードをもらったけれど使わなかった」と回答した人が37・7%、「今後も電子書籍を利用したい」と回答した人が40%いました。自由記述で意見を書いてもらったのですが、次のような意見が

寄せられました。

【利用した人からの意見】

- ・図書館に行かなくても色々な書籍を楽しめるので助かりました。
 - ・検索機能などがありとても便利だった。
 - ・図書館にも行けない状態だったので便利でした。
 - ・読みやすく、様々な本が揃っていて、とても満足しています。しかし、本に「しおり」を挟んでも、次読むときに消えてしまっていたので、そこを直して欲しいです。
 - ・読みたいと思っていた本はあまりなかったのですが、興味のなかった本でも読んでみると意外と面白かったです。新しい分野に挑戦できるきっかけをつくってくださり、ありがとうございました。
 - ・目が疲れてしまい最後まで読めませんでしたが、このようなシステムがあって良かったです。
- 【利用しなかった人の意見】
- ・液晶を長い間見続けると目が疲れるため、使用しませんでした。

・今回は課題でいっぱいいっぱい利用できませんでした。

・オンライン授業に加えて、スマホの利用が多くなり大変。

・本をパラパラできない。

・紙の本よりも存在感に欠けており、読むのを後回しにしてしまい、手がのびないまま終わってしまいました。

・パスワードをもらったけれど、今読みたいとおもう本がなく、読みませんでした。紙でないと本だと思えません。

(3) 学校図書館向け蔵書検索サービスの無償提供

4月24日に日本最大の図書館蔵書検索サービス「カーリル」が「COVID-19…学校向け蔵書検索サービスの無償提供について」を発表し、管理職に許可を得たうえで、カーリルに蔵書検索サービスの無償提供を申し込みました。2020年4月上旬までに受け入れた本でISBNコードがついている本を検索できるようになったのです。蔵書が検索できるようになったことで、

郵送貸出も行うことになりました。

本校では「ライブマックス」という蔵書管理システムを使って蔵書管理しているのですが、ライブマックスの蔵書検索サービス「ライブファインダークラウド」も無償提供をはじめ、来年3月末まで無償提供されることになり、現在はライブファインダークラウドを活用しながら蔵書検索サービスを行っています。

ライブファインダークラウドには検索機能だけでなく、開館カレンダー機能、図書館からのお知らせ機能、新着図書案内、ブックリスト機能があり、貸出中かどうかもわかるので、コロナウィルス感染拡大防止のために、借りたい本が決まっている人は事前に検索して図書館に来るように推奨しています。貸出中の本はメールでも予約を受け付けています。

(4) 郵送貸出

蔵書検索ができるようになったことで、公共図書館でも行っている本の郵送貸出を行うことになりました。

郵送貸出は、兵庫県や三重県での先行事例があり、郵送貸出にチャレンジした司書仲間の様子を聞いて計画を



お手紙を入れて郵送しました

立てました。在宅勤務中で、リクエストされた本の現物を当たれない日もあるので、受付は3日間です。その後、事務処理の日を1日設け、宅配便で送ることにしました。読みたい本をリクエストしてくる生徒も多かったのですが、なかには司書のおすすめセットとして、なんでもいから貸してほしいという生徒もいて、メールでやりとりしながら好みを聞いて本を選びました。送料は着払いで、生徒に負担してもらいました。18名の生徒に92冊の本を貸し出しました。

(5) 在宅勤務

高校の教職員も4月中旬から在宅勤務が推奨されるようになり、私も4月21日から月・水・金と出勤。火・木は在宅勤務で仕事をすることにしました。在宅勤務中はClassroomの更新や新書リストの更新、探究学習で使うスライド作りなどを行いました。月・水・金は図書館を開館し、先生方へのサービスを行いました。常連の先生はもちろんのこと、ふだん図書館を利用されない先生も本を借りに来てくれて、そこで授業の話を聞くこともでき、仕事の幅が広がりました。4月～6月19日までに教

職員の貸出が822冊。すごい冊数だと思います。

ふだんはゆっくり出版社のサイトをのぞく時間がとれなかったのですが、この時間でホームページを閲覧したり、データベースを実際に使ってみて、自分の研修にもなりました。

5 分散登校始まる

6月1日から分散登校が始まることになり、図書館も30分という短い時間で利用を再開しました。初日は200冊の貸出がありました。入館時のマスク着用、手洗いの徹底。換気の徹底。ドアノブなどの消毒。閲覧席、パソコンなどはしばらくの間使用中止。できるだけ事前に検索して本を確認して利用するようにという感染対策をしての利用再開でした。

1人の生徒が週に1回だった登校回数も少しずつ増え、1年生も図書館に来るようになりました。Classroomに入ってやりとりしていた1年生とリアルに会えるようになったことがうれしかったです。

オリエンテーションもできないままでしたが、6月19

日までの1年生の貸出が900冊を超えました。

そして、いよいよ埼玉県 の県立高校は6月22日から通常登校が始まりました。部活動も始まり、探究学習も開始です。コロナの効用で、Classroomを使って生徒に情報提供できるので、検索サイトの案内や調べ方のスライドを作ってUPすると同時に、授業の時間をいただいて説明もしています。

本校の生徒は、ほぼ100%が大学に進学する生徒たち。大学生になって、大学図書館を使うときに知っておくと便利な情報をどんどん提供していきたいと思っています。

6 休校のよってもたらされたもの

5月16日に、青山学院大学の庭井史絵先生が、「2020新型コロナウイルス対策下の学校図書館活動」というサイトを立ち上げ、各学校の図書館がどのような取り組みをしているかの情報収集を始めました。学校によっては、閲覧席やカウンターに飛沫防止シートを設置して飛沫対策をしています。本校では分散登校中ま

では閲覧席は使用禁止で対応してきましたが、通常登校になってからは閲覧席の座席数を減らして利用してもらう予定です。

この休校中に、企業のみなさんが積極的にデータベースを開放してくれたおかげで、生徒の学びの幅が広がりました。ただ、どのサイトも使用期限があり、使用期限が終わったらどう対応しようか悩みどころです。

休校中に利用させていただいた電子書籍については、学校再開後も利用したいという声がありました。予算の都合で断念しました。が、検索データベースなど、いま、自宅で利用できているものを、使用期限後も自宅で利用したいという要望がでるのは必須で、悩みの種です。本校図書館には生徒が自由に検索できるパソコンが5台あり、情報室でも契約している検索データベースを利用できます。部活動が始まると生徒たちは忙しい。そうになると、なにかを調べるときに、自宅でやりたいという生徒が増えてくると思います。

私が大学で司書資格をとり、高校司書になった頃は、インターネットもスマートフォンもない時代でした。本を蔵書として受け入れるときにも、目録カードを書いて、

図書台帳をつけていました。本一冊を整理するのにもとても時間がかかり、司書の仕事はまさに本の整理が中心でした。学校図書館にもコンピュータが導入され、本のデータもダウンロードできるようになり、学校司書の仕事も変わってきました。入力したデータを利用してブックリストを作ったり、児童生徒に図書館を利用してもらうための活動に、力を入れられるようになったのです。

そして、生徒とのやりとりのオンライン化が進んだこの休校で、学校司書の仕事が変わってくる気がします。学校が再開されても、Classroomは活用されます。授業にあわせたブックリストを作って、検索システムやClassroomの中で紹介していくことができます。必要ときに、ウェブ上で必要な情報を手渡すことができます。いうのは、とても魅力的です。

社会全体をみると、学校間格差、地域格差が広がることが心配です。経済的な理由でスマートフォンやパソコンを持っていない生徒や自宅のWi-Fi環境が整っていない生徒と、IT環境が恵まれている生徒との差はどうしても広がります。そのことも踏まえながら、学校図書館でできることを模索していきたいです。

7 埼玉県高等学校図書館

埼玉県には現在、約150校の県立高校があります。埼玉県はそのすべての県立高校に、専任で司書資格を持った学校司書を配置している全国的にもめずらしい県です。司書採用は県立図書館と同採用で、県内には県立図書館とあわせて200名以上の司書が働いています。2012年から県内の高校を17地区に分けて拠点校を作り担当部長を配置、近隣の7、8校で集まり研修をするなど、本の貸借を含めたネットワーク活動をしています。

埼玉県内の高校図書館には1979年から司書が全校配置されてきました。ところが、2000年から司書採用試験が中断し、新規採用者がいなくなりました。私たち現場の司書はそのことに危機感を覚えていました。なんとか採用試験を再開したい。学校図書館の楽しさと司書の仕事を県民に広く知ってもらいたいと考えて始めたのが、埼玉県高校図書館フェスティバルです。

2011年から活動を始め、最初の3年間はシンポ

ジウムなどのイベントも行っていました。が、2013年に無事に採用試験が再開され、イベントはそこで中断しました。が、その中の企画の一つとして行っていた「埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本」は、現在も続いていて2020年に10年目を迎えました。

8 「埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本」

「埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本」は本屋大賞のように、1年間に発行された本の中から高校生に読んでもらいたい本を投票するブックランキングです。前年の11月からその年の10月に出版された本で、1人3冊投票しています。いちばん薦めたい本が3ポイント、2番目に薦めたい本が2ポイント、3番目に薦めたい本を1ポイントと差をつけ、ポイント数の高い順にベスト10を選びます。投票できるのは、埼玉県内に勤務する公立高校の司書と私立高校の司書、私立高校の専任司書教諭。イチオシ本2019年は、118名が投票し、182タイトルの応募がありました。

他のブックランキングとイチオシ本の大きな違いは、

図鑑やノンフィクションなど、授業で活用できる本が入っていることです。2010年から2019年の1位の作品も、小説が5冊。ノンフィクションが2冊、図鑑が3冊とバラエティーに富んだラインナップになっています。

イチオシ本の発表は、毎年2月に行っています。2013年からはインターネットの動画で発表しています。

そして今年から発表動画に「イチ王子」というキャラクターを登場させ、イチ王子とランキングの本を紹介しました。ぜひ、動画をご覧ください。今年の第1位は、ブレイディみかこ著『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』（新潮社）。ブレイディみかこさんに直接お会いしてインタビューをさせていただきました。

この企画のおもしろいところはただランキングの発表をするだけでなく、イチオシ本の発表の次の日から、県内各地の書店と公共図書館でイチオシ本フェアを展開することです。2020年は約130の書店・公共図書館でフェアを開催していただきました。また、10年続けてきた取り組みが評価され、Library of the Year

2019ライブラリアンシップ賞を受賞することができました。

今回で10周年を迎えたイチオシ本。発表は2月14日だったので、新型コロナウイルスの影響はあまり受けずにすみました。今年は10周年を記念して、オンラインイベントの開催を検討中です。今後もホームページに情報発信していく予定なので、応援よろしくお願いします。

<https://shell2011.net/>

広報委員会

委員長 岩野忠昭

広報委員会の活動は『人文会ニュース』の発行とウェブサイトの運営が二本柱です。

前期の『人文会ニュース』は例年どおり年3回(8月、12月、4月)、発行いたしました。今期もそのペースを崩すことなく、3回発行することを目指します。同誌のコンテンツである「15分で読む」「書店現場から」「図書館レポート」は、ここ数年、書店や図書館の方から好評をいただき、今期はさらに充実した内容を揃えたいと考えています。人文会の活動を広く知らせるという役割を基本に、書店や図書館の人文書担当の方に少しでも興味を持っていただき、なおかつ日常の業務に役に立つようなコンテンツを提供していきたいと考えています。

ウェブサイト(<http://www.jinbunkai.com/>)は、人文会と会員各社の情報提供の場としてさらに内容の充実を目指します。新型コロナウイルスの蔓延により書店や図書館の休業、出版社の訪問営業自粛などを受け、ウェブを使った情報発信はますます重要性が高まりました。今後も皆さまのご批正を仰ぎつつ、更に充実させていきたいと思います。

紙媒体とウェブ媒体というそれぞれの特性を活かし、かつ補完し合いながら、人文会と人文書の普及、発展を目指しますので、今期もよろしくお願いいたします。

委員長 岩野忠昭(白水社)

吉岡 聡(春秋社)

副委員長 乙子 智(慶應義塾大学出版会)

三木 拓(法政大学出版局)

本橋弘行(ミネルヴァ書房)

調査・研修委員会

委員長 片山伸治

調査・研修委員会のミッションは、人文書の流通と販売のより良いかたちを目指し、「調査」と「研修」を行うことにあります。出版物流の危機が叫ばれるなど、業界が転換期を迎えていることは誰の眼にも明らかです。激動の最中に一出版社の知見のみで成し得ることは限られています。有益な情報を収集し会員社で共有することにより、各社の判断の精度を高めていくことがますます重要になってきています。

そんな折、当委員会の主要な活動のひとつである「特約店グループ訪問」がコロナ禍により中止を余儀なくされ、この新しい年度のスタートを予期せぬ形で切ることとなってしまいました。

より不透明さを増す状況の中で、当委員会の意義は逆に高まっています。従来の活動が難しくなっている現状でどのような活動をしていくべきなのか、書店様をはじめ、販売会社様・図書館様・新聞社様など業界を支える方々のご協力を得ながら考え実行していきたいと思います。今期もどうぞよろしくお願いいたします。

委員長 片山伸治(吉川弘文館)

廣井一茂(筑摩書房)

副委員長 西野浩文(勁草書房)

澤畑 壘(東京大学出版会)

委員会活動方針

販売・企画委員会

委員長 水口大介

販売・企画委員会の活動は、読者が我々の刊行する専門書と触れ合う機会の場を増やしていくことだと考えています。ここ数年、専門書販売の主な売り場であった大型書店の閉店・縮小が続いてきました。そして今回のコロナウィルスの影響で書店の臨時休業が続いた結果、ネット書店での購入や電子書籍・オーディオブック（ダウンロード型）の売上が劇的に増えました。また、図書館が一時的に閉館になるなど読書環境にも大きな影響が出ています。こういった変化に対応すべく今期も活動していきます。

具体的な取り組みですが、以前から継続しております「今月の一押しFAX」「ベストセクション」などをつかった書店店頭での売り場づくりに役立つ情報発信や「高校生のためのブックガイド」などをつかった良書提案を続けてまいります。また、書店店頭でのフェア開催なども規模の大小はございますが実施していきたいと思えます。

ここ数年、図書館向けの展示会などにも出展して情報発信に努めてまいりましたが、現在の環境下ではそういった機会も持つことが難しくなっております。今期は違った形の取り組みも模索してまいります。

これから先どのような変化が起こるかわかりませんが、会員社一同の力を合わせて、また書店様・販売会社様のお力をお借りしながら、専門書販売の場を作っていきたいと思えます。今期もどうぞよろしくお願いいたします。

委員長 水口大介(創元社)

副委員長 森 卓巳(青土社)

佐藤信治(大月書店)

志田則幸(紀伊國屋書店)

郡司恵太(誠信書房)

登尾純一(平凡社)

3. その他 情報交換

- 「高校生のためのブックガイド2020」発行 担当：青土社（森）
15,000部 4月発行

☆4月例会

コロナ感染拡大防止のため中止

○人文会ニュースNo134号刊行

2020/4/25 発行

15分で読む：中川裕氏（アイヌ文化、千葉大学文学部教授）

書店現場から：亥角理絵氏（金高堂書店）

図書館レポート：山重壮一氏（オーテピア高知図書館）

編集者が語る：『発達』丸山碧氏（ミネルヴァ書房）

- 書泉グランデ 人文会フェア 担当：法政大学出版局（朝倉）
期間：2020/4/20～5/6

○人文会ニュースNo133号刊行

2019/12/25 発行

15分で読む：岡本裕一朗氏（ヘーゲル生誕250年、玉川大学名誉教授）

書店現場から：山田清貴氏（大垣書店）

図書館レポート：千邑淳子氏（あま市美和図書館）

2019年特約店グループ訪問報告

2019年研修旅行報告

☆人文会 2020年1月例会

期日：2020/1/15 15:00～17:00

場所：春秋社 6F会議室

1. 代表幹事より
2. 各委員会活動報告
3. その他 情報交換

○人文図書目録刊行会編集会議

期日：2020/01/31 15:30～17:15

場所：トーハン本社 会議室

事務局：株式会社トーハン 広報室 藤瀬直美氏（広報室チーフ）・南健太郎氏

代表幹事：田崎、リニューアル：片桐、哲学・思想：澤畑・朝倉、社会：平石・西野・本橋、心理：水口・五月女

●人文書ベストセレクション105号「日本のよさを発信しよう」2020年2月発行

☆人文会 2020年2月例会

期日：2020/2/19 15:00～17:00

場所：筑摩書房 4F会議室

1. 代表幹事より
2. 各委員会活動報告
3. その他 情報交換
4. 来会：日本出版販売株式会社 浅香健氏（書籍仕入課 専門書係 係長）
新刊見本進行の前倒しについての説明。

☆3月例会

期日：2020/3/18 15:00～17:00

場所：神保町会議室

1. 代表幹事より
2. 各委員会活動報告

○人文図書目録刊行会2019年総会

期日：2019/11/21 16:00～17:00

場所：トーハン 8F大ホール

事務局：株式会社トーハン 藤瀬直美氏(広報室チーフ)・南健太郎氏(広報室・目録刊行会事務局)

●人文書ベストセクション104号「変わりゆく価値観」2019年11月発行

●徳島大学生協常三島ショップ 人文書ベストセクション104号フェア開催

担当：日本評論社(五月女)

●丸善久留米大学売店 人文書ベストセクション100号～102号を使用したフェア開催

担当：日本評論社(五月女)

●三省堂書店神保町本店 人文書フェア 担当：販売・企画委員会

期間：2019/11/5～2020/1/5 4059冊 7,999,821円 (昨年対比121.1%)

○図書館総合展 人文会ブース出展 担当：紀伊國屋書店(志田)

期間：2019/11/12～11/14

場所：パシフィコ横浜

関西大学図書館との勉強会 人文会参加者8名

●出版広告研究会との勉強会 担当：調査・研修委員会

期日：2019/11/26 16:00～17:30

場所：共同通信会館

懇親会：出版広告研究会14社16名、人文会 勉強会参加17社21名、懇親会参加14社16名

○Themaの推進について

期日：2019/11/19

場所：日本出版クラブ

日本出版インフラセンター Thema推進委員会事務局

☆12月例会

期日：2019/12/13 15:00～17:00

場所：筑摩書房 4F会議室

1. 代表幹事より
2. 各委員会活動報告
3. その他 情報交換

2. 各委員会活動報告
3. その他 情報交換
4. 来会：DNP 竹崎雄一氏(出版メディア事業部 書籍本部 BLM推進部)・片桐智恵子氏(出版メディア事業部 書籍本部 BLM設計部)・鈴木優氏(出版メディア事業部 出版メディアグループ生産革新推進本部)・鈴木修一氏(出版メディア事業部 出版メディアグループ生産革新推進本部)・荒木顕氏(丸善CHIホールディングス株式会社 経営企画部)

●トーハン図書館ブックフェア2019総合図書展示会

10～12月まで全国9会場にて開催 376冊 790,550円

○2019年人文会秋季研修旅行

期日：2019/10/23～10/25

方面：香川県、高知県

同行販売会社：株式会社トーハン 桜井秀則氏(書籍部マネージャー)／日本出版販売株式会社 園田浩之氏(マーケティング本部課長)／株式会社大阪屋栗田 坂野上正臣氏(MD本部 仕入企画部長)

研修旅行幹事：日本評論社(五月女)・筑摩書房(藤井)

○金高堂書店・人文会合同研修会「人文書販売から見たもの」創元社(水口)

期日：2019/10/24 15:00～17:00

場所：高知サンライズホテル 会議室「はつひ」

金高堂店舗4名・外商3名・同行取次3名・人文会18名

●金高堂朝倉ブックセンター 人文書フェア 2019/8/3～9/16 376冊 699,030円

●金高堂書店本店 人文書フェア 2019/9/18～10/31 573冊 1,022,597円

●金高堂外商部 314冊 660,004円

○人文書のすすめ(人文会創立50周年記念誌)

2019/10/1 ウェブ公開。1年間でページへのアクセス数は2230PV

☆11月例会

期日：2019/11/21 14:00～16:00

場所：トーハン 8F大ホール

1. 代表幹事より
2. 各委員会活動報告
3. 秋の研修会報告
4. その他 情報交換

●大垣書店イオンモールKYOTO店フェア 担当：大月書店(佐藤)・紀伊國屋書店(志田)
開催期間：2019/7/1～8/中旬

☆7月例会

期日：2019/7/17 14:00～17:30

場所：筑摩書房

1. 代表幹事・幹事会より
2. 各委員会活動方針
3. 特約店グループ訪問報告
4. 哲学・思想図書総目録リニューアル進行について
5. 来会：大学生協事業連合 仕入事務局 射場敏明氏、同全国共同仕入事務局 鯉迫伸一氏
大学生協の書籍事業再構築についての概要説明。

☆8月例会

期日：2019/8/21 14:00～16:00

場所：東京大学出版会 会議室

1. 代表幹事より
2. 各委員会活動報告
3. 秋季研修旅行説明
4. その他 情報交換

○「Amazonで売上を伸ばすためにできること」講師：東京大学出版会(澤畑)

期日：2019/8/21 16:00～18:00

人文会各社出席者30名

○人文会ニュースNo132号刊行

2019/8/25 発行

図書館レポート：渡邊真嗣氏(日販図書館選書センター)

書店現場から：磯前大地氏(くまざわ書店)

編集者が語る：《中世から近世へ》シリーズ 坂田修治氏(平凡社)

●人文書ベストセクション103号「死とは何か」2019年8月発行

☆9月例会

期日：2019/9/18 14:00～17:00

場所：筑摩書房 4F会議室

1. 代表幹事より

●笠原書店専門書フェア 担当：青土社（森）

開催期間：2019/5/1～5/29 100冊 178,200円

●有隣堂アトレ目黒店フェア 担当：平凡社（登尾）

開催期間：2019/5/1～5/29 70冊 147,200円

●三省堂書店東京駅一番街店フェア 担当：法政大学出版局（朝倉）

開催期間：2019/5/31～6/30 145冊 256,358円

☆6月例会

期日：2019/6/19 15:00～17:00

場所：筑摩書房 4F会議室

1. 代表幹事・幹事会より
2. 各委員会活動方針
3. 特約店グループ訪問進行状況確認
4. 情報交換
5. 来会：未来屋書店 堤達也氏・木村昭典氏・牛久保力生氏・井上あかね氏・吉田尚史氏・長谷川晋氏

・担当者変更：ミネルヴァ書房・三上直樹氏退職のため本橋弘行氏に交代。

・人文三目録：紀伊國屋書店・丸善ジュンク堂各主要店舗における通年展示配布の施策スタート。各目録、次年度特集記事・表紙変更準備開始。

○特約店グループ訪問

- ・6/12～6/14 愛知・京都グループ：◎勁草書房（西野）、○慶應義塾大学出版会（乙子）、大月書店（佐藤）、紀伊國屋書店（志田）、春秋社（吉岡）
- ・6/26～6/28 北海道グループ：◎平凡社（登尾）、○法政大学出版局（朝倉）、筑摩書房（藤井）、ミネルヴァ書房（青柳）
- ・6/26～6/28 四国グループ：◎創元社（水口）、○青土社（森）、晶文社（片桐）、吉川弘文館（片山）
- ・7/3～7/5 大阪・兵庫グループ：◎御茶の水書房（平石）、○白水社（岩野）、東京大学出版会（澤畑）、日本評論社（五月女）、みすず書房（田崎）

（◎班長 ○副班長）

○丸善ジュンク堂新刊受注アンケートの実施 調査・研修委員会

○日販選書センター特別展示

期日：2019/8/1～8/30 154冊 261,500円 担当：大月書店（佐藤）

エ) 各委員会の構成メンバーの選任 【別室】

* 選出された幹事(代表幹事、書記、会計と3委員長)により各員の希望も考慮し、委員会の構成メンバーを選考。

以下の人事を決定。

9 2019年度の役員および各委員会メンバーの発表

- ・代表幹事 田崎 洋幸(みすず書房)
- ・会計幹事 平石 修(御茶の水書房)
- ・書記幹事 片桐 幹夫(品文社)
- ・販売・企画委員会 ◎朝倉 哲哉(法政大学出版局) ○森 卓巳(青土社)・志田 則幸(紀伊國屋書店)・五月女 公(日本評論社)・登尾 純一(平凡社)・佐藤 信治(大月書店)
- ・調査・研修委員会 ◎水口 大介(創元社) ○片山 伸治(吉川弘文館)・西野 浩文(勁草書房)・澤畑 壘(東京大学出版会)
- ・広報委員会 ◎岩野 忠昭(白水社) ○乙子 智(慶應義塾大学出版会)・吉岡 聡(春秋社)・三上 直樹(ミネルヴァ書房)・藤井 若菜彦(筑摩書房)

《◎委員長(幹事) ○副委員長》

10 三役と各委員長挨拶

11 退任者、新担当者挨拶 なし

17:00 終了

総会幹事：平石(御茶の水書房)・志田(紀伊國屋書店)

○人文三目録 担当：広報委員会

2019-2020年版：2019年5月発行、8,000部(哲学・思想)、各7,700部(心理、社会)。「哲学・思想図書総目録」をリニューアル。巻頭に「書店員が選ぶ哲学・思想のおすすめ図書30選」を掲載。

2020-2021年版：2020年5月発行、10,000部(哲学・思想)、各7,500部(心理、社会)。「哲学・思想図書総目録」は巻頭に野矢茂樹氏ウィトゲンシュタイン、「心理図書総目録」「社会図書総目録」はどちらも表紙をリニューアル。

○「高校生のためのブックガイド2019」2019/4/1 17,000部発行 担当：青土社(森)

日販図書館選書センター・TRC・書店外商部(今井書店・岩瀬書店・メトロ書店・千葉市書店組合他)・展示会等で活用。

●三省堂書店札幌店フェア「知の森を歩く人文書フェア2019」 担当：法政大学出版局(朝倉)

開催期間：2019/5/9～7/10 401冊 724,227円

2019年度(2019.5～2020.4)人文会活動報告(全般)

書記幹事 片桐幹夫

☆第52回(2018年度)人文会総会

期日：2019/5/15

場所：文京シビックセンター会議室2

出席者：正担当者18名

14:00開始

総会の開催

1 代表幹事挨拶

2 総会議長選出

* 総会議長は慣例に従い前年度の書記幹事(片桐)が務める。

3 2018年度活動報告

ア) 会活動全般 (書記：片桐)

イ) 会計報告 (会計：平石)

4 2018年度各委員会活動報告

ア) 販売・企画委員会 (委員長：朝倉)

イ) 調査・研修委員会 (委員長：水口)

ウ) 広報委員会 (委員長：岩野)

5 会則の改廃

* 今回は変更の申請なし。

6 退会・休会・入会の承認・報告

・退会の報告：未来社

・休会の報告：誠信書房

7 担当者変更会員社の紹介 なし

8 役員の改選および各委員会構成について

ア) 代表幹事選出

議長より田崎氏を推挙。全会員賛同にて田崎代表幹事留任を決定。

イ) 選考委員選出

出席者による2名連記投票で票数の多い上位4名を選出。

ウ) 書記幹事、会計幹事および各委員会委員長名を選出 【別室】

選出された選考委員4名と代表幹事の計5名にて協議。以下の人事を決定。

会計(平石)／書記(片桐)／販売・企画(朝倉)／調査・研修(水口)／広報(岩野)

2019年度(第53回)人文会年次総会報告

書記幹事 片桐幹夫

2019年度(第53回)の人文会年次総会は、コロナ感染拡大防止のため例年より1ヶ月遅れ、2020年6月17日、「文化産業信用組合・会議室」において全会員社出席のもとに開催されました。

議事は、2019年度(2019年5月1日～2020年4月30日)の活動報告(全般)から始まり、会計報告、次いで「販売・企画」「調査・研修」「広報」の各委員会報告および質疑応答、承認と続き、新年度に向けての役員改選および各委員会所属メンバーを決定し、無事終了いたしました。

代表幹事には、昨年度に引き続き、全会一致で田崎洋幸氏(みすず書房)が選出されました。

会計幹事は平石修氏(御茶の水書房)、書記幹事は片桐幹夫(晶文社)が選出(いずれも留任)されました。委員会構成は昨年同様、「販売・企画」「調査・研修」「広報」の三委員会体制で会活動にあたることを確認しました。

各委員長(幹事)は、水口大介氏(創元社)が販売・企画委員長(新任)、片山伸治氏(吉川弘文館)が調査・研修委員長(新任)、岩野忠昭氏(白水社)が広報委員長(留任)に選出されました。

また、誠信書房の復会と日本評論社の休会が承認されました。

なお、各委員会の構成は、巻末の「人文会名簿」をご参照ください。

人文会会員名簿

〒113-0033 文京区本郷2-20-7 みすず書房内

2020年8月現在

社 名	担当者	〒	住 所	電 話	FAX
大 月 書 店	佐藤 信治	113-0033	文京区本郷2-27-16 2F	3813-4651	3813-4656
御 茶 の 水 書 房	平石 修	113-0033	文京区本郷5-30-20	5684-0751	5684-0753
紀 伊 國 屋 書 店	志田 則幸	153-8504	目黒区下目黒3-7-10	6910-0519	6420-1354
慶應義塾大学出版会	乙子 智	108-0073	港区三田2-17-31	3451-6926	3451-3124
勁 草 書 房	西野 浩文	112-0005	文京区水道2-1-1	3814-6861	3814-6854
春 秋 社	吉岡 聡	101-0021	千代田区外神田2-18-6	3255-9611	3253-1384
晶 文 社	片桐 幹夫	101-0051	千代田区神田神保町1-11	3518-4940	3518-4944
誠 信 書 房	郡司 恵太	112-0012	文京区大塚3-20-6	3946-5666	3945-8880
青 土 社	森 卓巳	101-0064	千代田区神田猿楽町2-1-1 浅田ビル1F	3294-7829	3294-8035
創 元 社	水口 大介	101-0051	千代田区神田神保町1-2 田辺ビル	6811-0662	3219-7800
筑 摩 書 房	廣井 一茂	111-8755	台東区蔵前2-5-3	5687-2680	5687-2685
東京大学出版会	澤畑 壘	153-0041	目黒区駒場4-5-29	6407-1069	6407-1991
日本評論社(休会中)		170-8474	豊島区南大塚3-12-4	3987-8621	3987-8590
白 水 社	岩野 忠昭	101-0052	千代田区神田小川町3-24	3291-7811	3291-8448
平 凡 社	登尾 純一	101-0051	千代田区神田神保町3-29	3230-6572	3230-6587
法政大学出版局	三木 拓	102-0073	千代田区九段北3-2-3 法政大学九段校舎1F	5214-5540	5214-5542
み す ず 書 房	田崎 洋幸	113-0033	文京区本郷2-20-7	3814-0131	3818-6435
ミネルヴァ書房	本橋 弘行	101-0062	千代田区神田駿河台3-6-1 菱和ビルディング2F	3525-8460	3525-8461
吉 川 弘 文 館	片山 伸治	113-0033	文京区本郷7-2-8	3813-9151	3812-3544

代表幹事 田崎洋幸

会計幹事 平石 修

書記幹事 片桐幹夫

《◎委員長(幹事) ○副委員長》

販売・企画委員会 ◎水口大介 ○森 卓巳・佐藤信治・志田則幸・郡司恵太・登尾純一

調査・研修委員会 ◎片山伸治 ○西野浩文・廣井一茂・澤畑 壘

広報委員会 ◎岩野忠昭 ○乙子 智・吉岡 聡・三木 拓・本橋弘行

人文会ホームページ <http://www.jinbunkai.com/>

(各種情報/各社へのリンクはこちらからどうぞ)

「高校生のためのブックガイド」のご案内

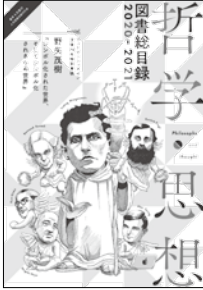
人文会では会員各社の刊行物の中から、高校生に読んでもらいたい書籍を2点ずつ厳選し、「高校生のためのブックガイド」として1枚のリーフレットにまとめました。書店外商部様や書店店頭でのフェアなどで活用いただいております。



目録のご案内

人文図書3分野の基本図書および最新刊を網羅した年度版の図書目録です。

●人文図書目録刊行会発行 A5判・平均200頁 頒価本体(各)286円



◆哲学・思想図書総目録2020-2021年版

約1,700点(114社)収載。

特別寄稿:野矢茂樹『シンボル化された世界、そしてシンボル化されきらぬ世界』

〔掲載分野〕哲学・思想一般/倫理学・人生論/美学/各国哲学
/現代哲学/宗教一般/宗教学 ほか

ISBN978-4-915268-46-5



◆心理図書総目録2020-2021年版

約2,400点(93社)収載。

〔掲載分野〕心理総論/基礎心理/発達心理/教育心理/臨床心理/精神分析/精神医学/社会心理 ほか

ISBN978-4-915268-47-2



◆社会図書総目録2020-2021年版

約2,200点(120社)収載。

〔掲載分野〕社会一般/家族社会/地域社会/産業労働/福祉・教育/社会問題/文化文明論/文化人類学/民俗学ほか

ISBN978-4-915268-48-9

* ご注文は書店にお願いいたします。

●人文会

〒113-0033 東京都文京区本郷2-20-7(みすず書房内)

●人文図書目録刊行会

〒162-8710 東京都新宿区東五軒町6-24(トーハンビル内)

TEL 03-3266-9521(事務局)

中年を
生き延びるために——

小説・エッセイから自己啓発本・実用書まで、中年期に書かれた、あるいは中年をテーマにしたありとあらゆる本を手に思考をめぐらせた読書エッセイ。

▼本体価格 1700円＋税

中年の本棚

荻原魚雷



紀伊國屋書店

出版部・東京都目黒区下目黒 3-7-10
営業TEL03(6910)0519

障害者の家族もまた、支援を必要としている

私たちは ふつうに老いる ことができない

高齢化する障害者家族

児玉真美 著 46判・1800円

争いつづけた人類の歴史を
一冊でふりかえる

これならわかる 戦争の歴史Q&A

石出法太・石出みどり 著

A5判・1600円

東京文京 本郷2-27 大月書店 電話03-3813-4651
otsukishoten.co.jp (税別価格)

慶應義塾大学出版会

<http://www.keio-up.co.jp/>

黒い雨に 撃たれて 上・下

一二つの祖国を生きた日系人家族の物語

バメラ・ロトナー・サカモト 著／

池田年穂・西川美樹 訳

米国陸軍大佐、ハリー・フクハラ。彼とその家族が辿った波乱の生涯を中心に、日米開戦によって二つの祖国のあいだで身を引き裂かれた日系人の生を描く。戦争に人生を翻弄された日米双方の市井の人々の経験を、あざやかな筆致で描き出す叙事詩。

各◎2,500円

〒108-8346 東京都港区三田2-19-30 【価格税抜】
Tel 03-3451-3584 Fax 03-3451-3122

御茶の水書房

小林一美 著

中共革命根拠地ドキュメント

一九三〇年代、コミンテルン、毛沢東赤色テロリズム、党内大粛清——
菊判・六五二頁 本体三〇〇〇円＋税

白木沢旭児 解説

A5判・四四四頁 本体二八〇〇円＋税

知取協定

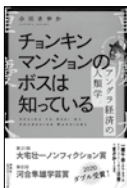
樺太における日ソ戦争の終結

日ソ戦争終結七五周年記念出版

終戦交渉の実態に迫る。一九四五年八月二日の知取における協定が戦闘を停止した重要性とソ連側の樺太侵攻の意図を戦闘全般について兵士の証言と史料で描く。

東京都文京区本郷5-30-20 ☎03(5684) 0751

好評9刷
大重版出来!



香港のタンザニア人ビジネス
マンの方法論から日本の未来
を考える。 本体2000円

◇第51回大宅壮一ノンフィクション賞 &
第8回河合隼雄学芸賞 受賞!!
**チョンキンマンシヨンの
ボスは知っている** アングラ経済の
人類学
小川さやか

春秋社 東京都千代田区外神田2-18-6 (税別)
TEL 03-3255-9611 FAX 03-3253-1384
〇web春秋 はるとあき 人気連載更新中!
<https://haruaki.shunjusha.co.jp/> ⇒

分析哲学 これからとこれまで
飯田隆 本体2500円+税

哲学とは何か。分析哲学とは何か。そして、哲学はどこへ向かうのか。待望のエッセイ集!

実験哲学入門

鈴木貴之 (編著)

二〇〇〇年以降の英米哲学で最も重要な研究動向の意義と可能性を明らかにする初の一冊。 本体2700円+税

ナツジ!?

自由でおせっかいなリタリアン・バターナリズム

那須耕介・橋本努 (編著)

強制にも説得にも頼らない社会改革の新技術「ナツジ」とその思想を解き明かす。 本体2500円+税

けい 茅草書房 TEL 03-3814-6861
FAX 03-3814-6854
〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1
<http://www.keisoshobo.co.jp>

目録のご案内

人文図書3分野の基本図書および最新刊を網羅した年度版の図書目録です。

●人文図書目録刊行会発行 A5判・平均200頁 頒価本体(各)286円



◆哲学・思想図書総目録
2020-2021年版
約1700点(114社)収載
特別寄稿:野矢茂樹『シンボル化された世界、そしてシンボル化されきらぬ世界』
〔掲載分野〕哲学・思想一般／倫理学・人生論／美学／日本の哲学・思想／アジアの哲学・思想／中近東・中南米・アフリカの哲学・思想／西洋哲学・思想／現代哲学・思想／宗教一般／宗教学／その他の宗教／哲学・思想関連雑誌
ISBN978-4-915268-46-5

●人文会
〒113-0033
東京都文京区本郷2-20-7 (みすず書房内)
●人文図書目録刊行会
〒162-8710
東京都新宿区東五軒町6-24(トーハンビル内)



◆心理図書総目録
2020-2021年版
約2400点(93社)収載
〔掲載分野〕心理総論／基礎心理／発達心理／教育心理／臨床心理／精神分析／精神医学／社会心理／その他の心理／心理関連雑誌
ISBN978-4-915268-47-2



◆社会図書総目録
2020-2021年版
約2200点(120社)収載
〔掲載分野〕社会一般／社会学理論／家族社会／地域社会／産業労働／福祉・教育／社会心理・マスコミ／社会問題／文化文明論／文化人類学／民俗学／神話・民話／社会関連雑誌
ISBN978-4-915268-48-9

吉本隆明全集

第10巻
【1965-1971】

第7回配本

《全38巻・別巻1》

NHK Eテレ

100分
de名著

7月放送分に

『共同幻想論』

(本巻収録)が登場!

『言語にとって美とはなにか』から分岐派生した二つの原理的な考察『心的現象論序説』『共同幻想論』と、春秋社版『高村光太郎選集』の解題として書き継がれた光太郎論を収録。 本体価格 6300 円 + 税

晶文社

〒101-0051 千代田区神田神保町 1-11
Tel.03-3518-4940 Fax.03-3518-4944

靖国神社論

岩田重則

文献史料をこらんとて精査、
あたらしい近現代日本精神史。

圧倒的な現地調査から導き出される、

4400円

物的中国論

羽根次郎

歴史と物質から見る「大國」

思想や政治の根底をなす「モノ」とは何か。近くて遠い隣国をめぐる、
現代の物質的國家論。

2600円

科学哲学へのいざない

佐藤直樹

科学を固定した完全な知識と考えないこと、近代科学から新型リナウ
イルスまで。科学者の立場から科学哲学を考える。

2400円

青土社

東京神田神保町 ☎03-3294-7829
http://www.seidosha.co.jp/ (価格税抜)

がんと心理療法のこころみ

夢・語り・絵を通して

岸本寛史 著 エビデンス・ベイズ・メディ
スンを堅持するあまり、がん患者の思いが脇
に置かれる現状に警鐘を鳴らしてきた著者
の最新作。患者一人一人の心に寄り添い真に
望ましい療養とは何かを提示する書。3900 円

学校トラウマの実際と対応

児童・生徒への支援と理解

藤森和美 編著 平時からトラウマに配慮した学校づ
くりを考えることや、「チーム学校」の考え方など、不
登校・虐待・性暴力被害・災害・事故・事件といった
問題に対する現代的なアプローチを紹介。2400 円

ポケットブック 影響力の武器

仕事と人間関係が変わる 21 の心理学
N.J. ゴールドスタイン・S.J. マーティン・R.B. チャルティエニ 著
影響力の武器シリーズに持ち運びにも便利なポケッ
ト版が誕生。仕事や人間関係に効く心理学。1300 円

誠信書房

Tel 03-3946-5666
SEISHIN SHOBÔ 東京都文京区大塚 3-20-6 (税抜)

創元社

【ビジュアル版】

世界の歴史 大年表

定延由紀 李聖美 訳
中村佐千江 監理子

古今東西の帝国の興亡や、世界を変えた発明の数々、時代を画
する科学的発見、多彩な芸術の発達など、多面的な人類の歴史
を134のテーマで読み解くビジュアル年表の決定版！
▼A4判変型・上製・320頁・定価4500円＋税

イラストで学ぶ

地理と地球科学の図鑑

柴山元彦 中川昭男 監修
東辻千枝子 訳

自然地理学・地球科学および人文地理学の主要テーマ、さらに
技術の進歩が目覚ましい地図学のトピックや地理学研究の方法
までを網羅し、楽しいイラストで解説する学習図鑑。
▼B5判変型・上製・256頁・定価3000円＋税

大阪市中央区淡路町4-3-6

☎06-6231-9010 Fax06-6233-3111

千代田区神田神保町1-2 ☎03-6811-0662

筑摩書房創業80周年記念出版
新シリーズ全8巻、堂々完結

シリーズ累計14万部突破!!

ちくま新書

世界哲学史

伊藤邦武 山内志朗
京都大学名誉教授 慶應義塾大学教授
〈責任編集〉
中島隆博 納富信留
東京大学教授 東京大学教授

総勢102名の叡智が集結

最新刊 世界哲学史8 現代グローバル時代の知
定価(本体940円+税) 電子書籍も配信中

おかげさまで80周年 筑摩書房
営業部 ☎03-5687-2680
<http://www.chikumashobo.co.jp/>

歴史学の慰め

アンナ・コムネナの生涯と作品

井上浩一 歴史が男の学問とされてきた時代に、ビザンツ帝国中興の祖である父アレクシオス一世の治世を記した、皇女の生涯をたどり作品を分析する。

【新刊】●本体3200円+税



ビザンツ帝国 生存戦略の二千年

ジョナサン・ハリス 外部からの脅威に対して革新と順応を繰り返しながら、千年にわたり東地中海に栄えた帝国の興亡を、おもな皇帝を軸に語る。井上浩一訳

【好評既刊】●本体4200円+税

白水社 東京都千代田区神田小川町3-24
tel.03-3291-7811 / fax.03-3291-8448

〈社会的なもの〉の歴史

社会学の興亡 1848-2000

厚東洋輔

19世紀中葉、「社会問題」「社会主義」とともに、〈社会的なもの〉が発見され、「社会学」が誕生した。一世紀半にわたる社会学思想の物語。

7500円+税



東京大学出版会

〒153-0041 東京都目黒区駒場 4-5-29
TEL 03-6407-1069 FAX 03-6407-1991
<http://www.utp.or.jp/>

日本人必読の「半藤昭和史」完結編 待望の文庫化！
平凡社ライブラリー

世界史のなかの昭和史

半藤二利

愚かな政治と「愛国」が過つ国の未来。
現在の日本を照射する
警告の書

青木理 ジャーナリスト



B6変型判 本体1000円+税

平凡社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-29
tel 03-3230-6573 fax 03-3230-6587
<https://www.heibonsha.co.jp>

2020年8月25日発行 年3回発行 第135号

発行所 人文会

〒113-0033 東京都文京区本郷2-20-7 みすず書房内

編集協力 アジュール・プロダクション

印刷 中央精版印刷株式会社

〈非売品〉